

28PB-am239

ケラチノサイトに対する皮膚常在微生物 *Malassezia* と *Staphylococcus epidermidis* の作用

○齊藤 知慧¹, 張 音美¹, 杉田 隆¹ (¹明治薬大)

【目的】皮膚には多種多様な微生物が常在しているが、お互いが絶妙なバランスを保持しながら生存している。このバランスが破綻すると様々な疾患へ進展することがある。従って、菌叢バランスを制御することは疾患制御あるいは健康増進を可能とすると考えられる。頭頸部における優位な菌種は、細菌では *Staphylococcus* 属、真菌では *Malassezia* 属である。本研究では細菌—真菌の共存がケラチノサイトへ与える影響を調べた。

【材料および方法】*S. epidermidis*、*S. aureus* および *M. restricta* を使用した。MOI (Multiplicity of Infection) = 1~400 に調製した各々の菌株をケラチノサイトに添加し、細胞傷害性(LDH)およびサイトカイン産生を調べた。

【結果および考察】単独感染では、*S. epidermidis*, *S. aureus* および *Malassezia restricta* とも高 MOI では細胞傷害を起こした。細菌—真菌の共培養系では、相乗的に高い LDH 値を示した。しかし、*Staphylococcus*(MOI=50~100)では、単独および *Malassezia* 共培養系において、未感染コントロールより低い LDH 値を示した。しかし、IL6、IL8、TNF- α のサイトカイン産生は増加した。以上、特定の MOI で細胞傷害を抑制する効果があることが明らかにされた。今後はこの機序と意義について検討する予定である。